

学生新聞

放送大学
埼玉学習センター
埼玉CSC交流会
学生新聞
編集委員会
〒330-0853
さいたま市大宮区
錦町682-2
TEL048-650-2611

第4回 一般公開講演会 「がん哲学」教育・対話学の確立」 易しい言葉で説かれたがん哲学を聴く

一般公開講演会第4回は「がん哲学」教育・対話学の確立」として、順天堂大学 名誉教授 樋野興夫先生を迎えて、年末の12月22日(日)に催された。

樋野先生は順天堂大学の病理学教授として、長年腫瘍病理学の研究・教育・診療に携わって来られた。今や日本人の2人に1人はがんに罹る時代になった。時によってがんは、死に直結する病気となることから「がん」と共生する時代」になったのだ。一方で樋野先生は、がんになった患者さんやその家族および介護者など多くの人が、がんを告知されたショックから立ち直れず、苦しんでいることに心を痛めていた。がんの医療は急速に進歩・向上しているが、患者さんやその周囲の人の心の苦しみに手を差し伸べる必要があると思われ、先生はこのような人達の相談窓口として、08年に「がん哲学外来」という特別外来を3か月の期間限定で開設し、患者さんやその家族との個人面談を行うことにした。ところが、当初の予想に反して受診相談希望者があり、その後も増え、その後大病院の近くで

「がん哲学外来・カフェin御茶ノ水」を開設して患者さんとその家族の個人面談の場をつくった。その後、この趣旨に賛同する全国の友達により、各地で「がん哲学カフェin〇〇」が開設され、全国にひろがっている。



講演会当日は、満席の参加者が熱心に先生の話を聴くとともに、多くの人が自身や身の介護体験とそれに伴う悩みを語り、先生の助言を求めた。先生の話しは易しい言葉ではあるが、その意味には哲学的な深いものがあり、にわかには理解できず、更に質問する人も多かった。それに対する先生の答えも、またユーモアに富んだ禅問答のようなやりとりで笑いが広がった。先生からは講演での話以外にも、多くの真に心に響く金言―「言葉の処方箋」をいただいた。それらの金言を紹介する。

・「病気であっても病人でない！」
・「がんであっても、人間としての役割意識と使命感を失わずに生きる人は病人ではない」
・病気であっても、自分の特技を生かしたり、家族に対する役割分担できる部分がある

「年度の終わりに際して」 埼玉学習センター所長 堀尾健一郎

早いもので小生が埼玉学習センターに着任して10か月が過ぎました。実にいろいろなことを体験させていただいておりますが、学習センター最大の任務である単位認定試験は想像を超える出来事でした。閉講再試験科目があるため実施科目数が多い第1学期の実績で言いますと、埼玉学習センターでは修士課程、学部合わせて7386名の受験者に392科目の試験を行いました。1日8時限のうち多いときには同時に9科目という時間帯もありました。学生の皆様にとって大変大事な単位認定試験を、全国一斉、同時時間帯に同一複数科目で実施し、かつ滞りなく行うという使命に対して、その役割を淡々と完璧にこなす学習センター職員の方々の仕事ぶり手腕に感銘を受けました。緊張感に満ちた10時間以上の任務を、途中2日の休日を挟んで10日間も続くということの大変さも実感しました。

第2学期の試験では、1月28日に積雪で交通機関に影響が出るかもしれないことへの対応を、前日が閉所日であったため前々日に考える必要がありました。天気予報も安全を見ようとしたのか、「雨になると寒気のおかげで寒気のわずかな位置の違いで積雪になるかもしれない」という非常に困る予報がずっと続きました。学生の皆さんが来られるかどうかと併せて、職員や監督者をお願いしている方々が来場可能なのか、大宮はいろいろな交通機関があるので、ある交通機関が不通の場合にどのようになるのか、などと考慮することが多数ありました。「来所された方には、予定時限でなくても試験を受けていただく。」という方針で臨むことを確認しました。総務係の方で職員、監督者の路線別分布を調べていただき、特定の路線に偏っていないことがないので、学生の方が来たのに職員・監督者が居ないという事態は避けられそうだということは事前に予測できました。以前勤務していた大学では、交通事情などである程度人数が来られなくなれば、とりえず試験全体の日程変更で対処するという単純な対応が普通でした。放送大学では日時を変更すれば受験できなくなる学生がおられる可能性があるために、きめ細やかな対応が必要になるということも学びました。

前回の学生新聞でも申し上げました通り、今年7月の単位認定試験はオリンピックのお陰で修士と学部の試験を同一日程で行い、全体として6日で終了する予定になっています。台風だけは来ないように、と今から祈っています。

・家族や社会に対する役割意識を自覚すると、心の尊厳や人間性を取り戻すことができる
・希望をもって生きる人は病人ではない
・心配するのは一日1時間でもいい、のこりの時間は自分の役割を楽しみながら果たせ
・病気の悩みは解決できなくても解消はできる
・死を突き詰めて考えるより、むしろ余命を大切ににして、その時間を大切に生きなさい
・死なない人はいない。余命はいまい、未確定なものである
・八方ふさがりであっても天は開いている
・人生に期待するより、人生に期待されている自分に気づくこと

学びの場を求め放送大学へ ② 埼玉学習センター 宇都宮 明

私は自宅に近い埼玉学習センターに所属しているが、同センターはJR大宮駅から徒歩5分ほどの近距離で通学には至便である。学士資格の取得は、大宮が規定する124科目を履修する必要があり、各科目毎に単位認定試験前には予備試験としての通信指導試験を受け、面接授業後のレポート提出の他、単位認定試験はなかなかの難関で、それだけに醍醐味もある。50分の試験時間中、教室内は異様な静まり、張り詰めた空気が漂う。受験生は真剣な面持ちで試験問題と格闘する。しかし時間は受験生の気持ちとは一切関係なく刻々と経過し、異様な雰囲気の中に、試験は終了する。前述のように私は現在、全科履修生として学習し、今回は3度目の学士号取得を目指して学習中である。令和2年度(2019)第1学期の単位認定試験に臨んだ。しかし、3科目を受験したが、2科目が不合格となり、大変にショックを受けた。その事実のもとより、私生来の愚鈍ないし不勉強に起因するが、その一方、この試験が生半可な学習ではなかなか単位は取れない事を示す事例であるかもしれない。

人間にとって、学ばばかりでは肩が凝るし、頭は痛くなる。私の属する埼玉学習センターでは、学生が互いに研究会や勉強会、及びスポーツ活動を行うためにサークル学生団体を設立し、学生相互の親睦を図っている。例えば、美術鑑賞、音楽鑑賞、ハイキング、研修旅行など、主に学外の活動や学内におけるクラブ活動、例えばパソコンサークル、ソーシャルダンスなど14のクラブ活動的の学生団体が設立され、会員はすこぶる和気あいあいとして楽しみながら研鑽に努め、成果を挙げている。特記すべきは、年1回の学園祭がある事だ。学園祭では、各サークルの練習成果の発表や各種展示の他、様々な楽器演奏など学生たちが自慢の腕を披露し、吹奏楽団によるにぎやかなジャズ演奏なども行われる。学習センターは終日、活況を呈し、学生たちが互いの交流を楽しむのである。

先生の言葉は一見易しいが、じっくり考えると、人の心の奥深いスピリチュアルな場所に訴えかけるものであり、大きな感銘を受けた。(智義)

2020年度第1学期 学生募集
2020年度4月入学

事務室からのお知らせ
2020年度第1学期 学生募集
2020年度4月入学

2019年度 学位記授与式等中止について
3月21日(土)に開催を予定していた学位記授与式及び卒業・修了祝賀パーティの中止について、お知らせ欄から「放送大学学位記授与式及び卒業・修了祝賀パーティの中止について」をご覧ください。

生を募集しています。出生の受付は、第1回が2月29日(土)、第2回が3月17日(火)までです。皆さんの周りに放送大学に興味・関心のある方がおいででしたら、是非ご紹介ください。紹介された方が入学(再入学を除く)された場合には、薄謝を進呈いたします。

「ダンス、ダンス、ダンス」
埼玉CSC交流会代表 大島祥市
私は現在放送大学3つのダンスサークルに所属しています。ソシアル、研究会、そして文京サークル。どれも熱心で素敵なサークルです。経験年数は逆に文京が丸3年、研究会は昨年1月から。思いがけず昨年4月にCSC代表となり、6月から1度フリーの練習日を設けています。6月には思いがけず土曜日午前の地域活動役員か

「町人貴族」本文は続
さえあれば他に何もいりません」と語られます。さて新しい年、令和2年は新年早々のアメリカ軍によるイラン司令官殺害のニュース、イランによる民間機誤爆、日本はすでにタンカーの安全と調査のため自衛隊を派遣しています。今は小康状態となっていますがこの文が載る新開発行は2月21日、「このな時に何がダンスか!」とお叱りを受ける状況になつていなければ良いのですが、「町人貴族」本文は続

「老人への挑戦」
笹原誠二
「若いもの自分でも決めたことば、最後が大切だと思つていいます。人に頼りなるとか努力して、曲がりなりにも何とか生きていきたいと思います。」
しかし、77歳を過ぎた頃から、足腰の衰えを感じることが多くなってきました。時々、足下がふらついて、思わず手近にあるものに掴まってしまいます。
先日、東武線大宮駅で、突然足下がふらついて、立ちくらみとめまいで目の前が真っ暗になり、回復するまで駅長室で休ませてもらいました。
自分では、思うように動けなくなると、他人の世話になりたくなくて、外出するのが億劫になってしまふ事が多くなり、ますます老化が進んでしまふように思います。それで時々、夕方になると、家の周りを散歩する事にしています。本当は、手ぶらでスイスイと歩きたいのですが、腰の痛みに耐えながら歩くのも大変なので、心ならずもステッキ代わりのこうもり傘を手にして出かけています。そのせいか、一時的には腰の痛みが軽減したように感じます。
「老人と海」は、84日間、魚一匹釣れない老漁夫が、やと出会った大きなカジキマグロと4日間格闘して、これを仕留めまうが、港へ帰る途中で大部分を鮫に食われてしまふという物語です。しかし、老人は自分の老いを感じながらも、必死に大魚と闘い、漁師としての人生を思い起こし、仕事への誇りを取り戻します。
私も自分の生きがいを探しながら、少しでも現在の意気を維持していきけるようにしたいと思つています。

学生手帳
「若いもの自分でも決めたことば、最後が大切だと思つていいます。人に頼りなるとか努力して、曲がりなりにも何とか生きていきたいと思います。」
しかし、77歳を過ぎた頃から、足腰の衰えを感じることが多くなってきました。時々、足下がふらついて、思わず手近にあるものに掴まってしまいます。
先日、東武線大宮駅で、突然足下がふらついて、立ちくらみとめまいで目の前が真っ暗になり、回復するまで駅長室で休ませてもらいました。
自分では、思うように動けなくなると、他人の世話になりたくなくて、外出するのが億劫になってしまふ事が多くなり、ますます老化が進んでしまふように思います。それで時々、夕方になると、家の周りを散歩する事にしています。本当は、手ぶらでスイスイと歩きたいのですが、腰の痛みに耐えながら歩くのも大変なので、心ならずもステッキ代わりのこうもり傘を手にして出かけています。そのせいか、一時的には腰の痛みが軽減したように感じます。
「老人と海」は、84日間、魚一匹釣れない老漁夫が、やと出会った大きなカジキマグロと4日間格闘して、これを仕留めまうが、港へ帰る途中で大部分を鮫に食われてしまふという物語です。しかし、老人は自分の老いを感じながらも、必死に大魚と闘い、漁師としての人生を思い起こし、仕事への誇りを取り戻します。
私も自分の生きがいを探しながら、少しでも現在の意気を維持していきけるようにしたいと思つています。

私の本棚から

梶浦 真

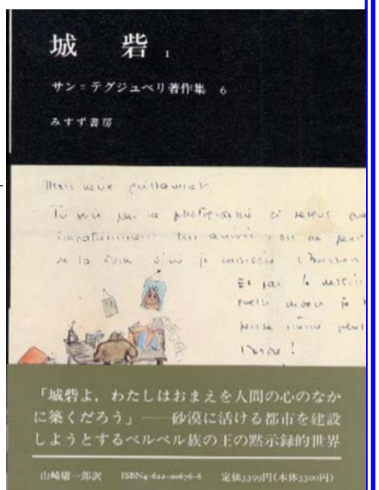
教育報道出版社 社長

『城砦』 1、2、3

みすず書房

サン=テグジュペリ
著作集 6、7、8

サン=テグジュペリ 著
山崎庸一郎 訳



サン=テグジュペリの著作と言えば、「星の王子様」が最も有名であろう。しかし、彼は童話作家ではない。むしろ、自家では無い。むしろ、自家の体験に基づいた哲学的な思想を表現した作品が多い。

また、作家でありながら航空機のパイロットとしても活躍した。「人間の土地」や「夜間飛行」などは、パイロットとしての飛行体験が基になって生まれた。そうした稀有な体験から紡ぎ出された表現や思想には、生きることの意味や本質を問うかける視線が含まれている。

私がテグジュペリの作品の中で最も強い影響を受けた作品が、「城砦」である。彼の遺作となつたこの作品は、未完の作品だ。隠喩表現や換喩表現が多用されているため、読みやすい本とは言えない。しかし、この著作を通して主張されている人間観、人生観は「人間が人間らしく創造的に生きる意味」を深く考えさせるものだ。「おまえに言っておく。人間は己の充実を探し求めているのである。幸福を探し求めているのではない」というメッセージからも、厳しく創造的な生き方を求めている

ことがわかる。そして、己の人生の充実に向けて主張されている思想が「交換」という概念だ。ここで言う「交換」とは、一言で言えば「自己と価値の交換」である。「城砦」で例に挙げられているのは、「刺繍をする職人」や「彫金をする職人」だ。彼らは己を、刺繍の作品や、彫金の作品が持つ「永遠の価値」と「交換」するといふのだ。この、対象と己の「交換」こそが、命の充実と真の幸福につながるという主張である。刺繍の作品を創る職人は、己の存在を、自分が作り出して

た刺繍作品とゆつくりと交換して行く。やがて、年若い織女が死んでしまったとしても、彼女が生み出した素晴らしい作品は、永遠に残る。つまり、織女は永遠の価値と自分を「交換」したのである。このところ、吉野彰氏のノーベル賞受賞が話題になっている。これも、吉野氏がバッテリーの研究という「対象」と「己」を「交換」した結果であろう。

この「交換」という思想は、私にとって、生きる勇気を与えてくれた思想だ。仕事や研究をしていて迷った時、「おい、

しつかり「交換」できているか。できていれば結果は後から付いて来る」と、自分を見つめ直す。「交換」という思想は、迷っている時に自分を支える「杖言葉」になっているのだ。

尚、「星の王子様」も平易な表現ではあるが、含蓄のある指摘が要素所に見える。「大人は数字が好きだ。新しい友だちができたよと言っても、大人は大事なことは何も聞かない(中略)」「兄弟は何人?」「とか、「体重は?」「とか「お父さんの収入は?」などという数とばかりだ。こういう数字を知つただけで、大人はその子のことをすっかり知つたつもりになる」。

「物事の本質を見抜く知的視線の鋭さ」は表現の平易さを越えて行く様だ。表面的な情報や思想に惑わされぬ様、今後も価値に向かう「交換」を意識して生きていきたい。

俳句(つみ草)

鉄道博物館吟行 兼題「冴返る」

春ささアプト式とて確氷越
機関車の金の一の字冴返る
御料車の鶴の文様春ささず
春寒の虚空に汽笛転車台
くろがねの機関車の軸冴返る
春来る車体に映る顔と顔
深く眺の相撲春の草
測量の鎖巻尺冴返る
冴返る未明の貨車は人ひとり
春塵を置かぬ御料車うるし塗
春風に車掌走るや無人駅
白梅や御召列車の那須止り

みさ子 功 光娥 十詩 明美 由美 順 厚子 八重子 幸宏 安代 とく江

《第2木曜日 午後1時より句会》

「オペラ「ナブッコ」に出演して」

Wienerwald Musikfreunde 南雲 功

昨年12月21日、22日の両日、オペラ彩が主催するベルディ作曲オペラ「ナブッコ」に、埼玉SC所属サークルWienerwald Musikfreundeの有志11人が合唱として出演した。

公開講演会等で埼玉SCと交流のある、「オペラ彩」プロデューサーの和田たか子氏からオペラの公開レッスンへのお誘いがあり、イタリア文化会館におけるヴィート・クレメンテ氏のレッスンが縁となり、本番にも出演することになった。

全員がオペラ未経験で、必死でローマ字を追いかける。高校生も初出演だが、音楽大学附属高校生や、全国合唱コンクールで優勝の経験をしている。その他の音楽以外のスタッフも含め、プロばかり。つまり、11人の勇気ある素人が、いきなりプロのオペラに出演することになってしまったのである。しかし幸い、一人の脱落者もなく全員が本番を迎えることができた。

オペラは当然の事だが、暗譜歌唱はもちろん、舞台上で演技をしなければならない。「ナブッコ」は他のオペラに比べ、合唱の比率が高く、30分以上が歌うだけでなく、舞台上で1時間以上も演技をしなければならない。練習は土・日を中心に毎回3時間ずつ行われた。イタリア語の発音、リズム読み、音程と続く。しかしこれは、経験者のプログラム



であるから、学習センターで自主練習を同じ程度行い、同時に、もちろん個人練習も日課となる。与えられた役は誇り高きヘブライの民衆として、戦争、権力闘争、捉われ人、処刑宣告、救済という運命に翻弄されながらの人生の中で恐怖、希望、望郷、絶望、祈り、喜び、さらに家族への愛や仲間との連帯、最後には許しを請う者への寛容などを、各自が自ら考えて演じることが要求される。

過酷な練習ではあったが、毎日、トップクラスのオペラ歌手のアリアが至近距離で聞けるという、オペラファンにとっては至福の時でもあった。マエストロとの指揮により、音楽が内面的高揚へと昇華していく事に感激した。

舞台裏は、暗く、段差があり、細心の注意を払いながら、出番を待つソリスト、合唱、舞台裏のオーケストラ、大道具、小道具、ステージマネージャ、副指揮者、助監督など、100人を超すスタッフが静かに動き回る火事場の状態である。出演者は客席からどう見えているかは、まったくわからない。後で、写真を見て、とても幻想的な舞台に写っている事に驚いた。

この度の公演に際し、多くの放送大学関係者の応援に支えられて、無事公演を終えることができました。貴重な経験をさせていただき、まことにありがとうございました。



2020年度春 入学者の集い

2020年度第1学期の入学者の集いは、4月4日(土) 14時から、埼玉学習センター18階講堂での開催を予定しておりますが、新型コロナウイルスの感染拡大状況を踏まえ、変更がある場合はホームページ、掲示によりご案内いたします。

3月のサロン

★3月7日(土) 13時~16時
サロンかじはら
「こころの探偵団」第1回
「こころとは何か」
場所||第5講義室
講師||梶原直樹
(放送大学埼玉学習センター客員教授)

3月10日(火) ター客員准教授

★3月10日(火) 13時~17時
絵画サロンこざわ
~ドローイングとデッサン~
場所||実験室
講師||小澤基弘
(放送大学埼玉学習センター客員教授)

サークル おおみや

★2月 イベント中止
★3月 2019年度総会・新年度前期活動計画等作成

健康体操研究会

★2月||25日講堂
★3月||3日講堂(13時) 10日、17日は講堂
24日第6講義室
31日講堂(終了後総会)
毎週火曜日|| 10時半~12時

編集委員を求めています

一緒に新聞作りを 楽しみましょう!

原稿をお寄せください

あなたの作品を お待ちしています

CSC 交流会
学生新聞・編集委員会(冬木)
mail:mimi-fuyu@kind.ocn.ne.jp



江戸時代の古文書を読む会

★2月16日(日) || 勉強会(放送大学9F)
★3月27日(金) || 研修旅行(茨城県立歴史館)
★4月12日(日) || 勉強会・監査(シーノ7F)
★4月25日(土) || 勉強会・総会(放送大学)

熟年会

★3月10日(火) || 総会
★2月25日||パソコンクラブ(13:15~15:15)
3月17日(火)
★3月24日||第6講義室
映画鑑賞(10時~)
タイトル「八甲田山」

朗読の会「いろ」

★2月28日||第6講義室
★3月6日、13日、27日 9時半~17時
場所は全て第6講義室

W・W・M

★3月11日||講堂 13時半||茂木先生
★3月18日||講堂 13時半||ボイストレーニング
★4月8日||未定 AM||器楽練習、13時||総会

編集後記

新型コロナウイルスによる肺炎の感染が、拡大を続けています。その影響で、年度末に向けて予定されていた様々な行事が、中止を余儀なくされています。時間をかけて準備を進めていた方々には、無念の中止でしょう。一日も早い感染の終息を願うばかりです。(冬)